

令和 6 年度第 3 回「子ども支援専門部会」 質問に対する回答

田島委員

①p5 報告事項 1 の「イ教育・保育施設におけるむし歯罹患率の二極化」とありますが、むし歯のない施設と、罹患率の高い施設の大きな違いは何であると考えていますか？罹患率の高い施設は①共通の特徴、②地域差などありますか？別添 2 を拝見すると給食後の歯磨きをする施設が増えているとあったのですが、むし歯との罹患率の関係があれば教えてください。

（意見）子どもが幼稚園や小学校で「あだちっ子歯科検診」や「六ちゃん」プロジェクトを受けていますが、こどもの歯磨きへの行動が変わります。親の言うことをなかなか聞かないので教育現場で歯磨きの大切さなどを伝えていただけることがとても有難いです。

【子ども政策課 回答】

共通の特徴や地域差などの明確な理由はわかっておりません。年少から年長にかけて奥歯のむし歯が増加していることが健診データから明らかとなっているので、年少からの歯みがき・仕上げみがきの習慣づくりなどのむし歯予防が重要であると考えています。

②p6 の民設学童保育室の公募について、7 地域に応募がなかったとのことですが、待機児童の解消のために代替案として考えていることがありましたら教えてください。周知は十分されていたのでしょうか？

【学童保育課 回答】

応募がなかった地域のうち、特に学童需要が多い小学校内施設を活用し、既存の学童保育室の定員拡大を検討し、放課後の居場所を確保していきます。

裏面あり

③審議・調査1-1別添1につきまして、p18の待機児童の数が令和5年度よりも47.5%増加したとのことですが、来年度はどれくらいの待機児童が増加すると区では把握されていますか？待機児童になってしまったお子さんを抱えるご家庭はその後どのようなようになったかは区では把握していますか？例：退職せざるを得なくなったなど

【学童保育課 回答】

待機児童数については、各家庭の事情が影響されるため予測することが困難です。しかし、全体としての学童保育室の需要は引き続き増加するものと考えています。

また、現在の体制では、待機児童となったご家庭に対する追跡調査は行うことができておりません。今後は、学童保育室が待機となったご家庭に対して他の放課後に居場所をご案内できるよう努めてまいります。

④審議・調査1-1別添1につきまして、p40の現状1②で「保健センターでの相談や子ども支援センターへの来所・電話相談が令和2年度比べると1,630人増加した」とありますが、増加に伴い実際にげんきで相談できるまでの時間がかかるようになったと思います。需要に対して人員の整備などはされていますか？

【支援管理課 回答】

相談の枠を広げるために相談員と心理士の人員を増やし、現在未就学児の相談の予約までの期間は緩和しています。

⑤またp40ページの課題で「幼児経過観察健康診査の受診率向上を図りながら、早期発見・早期支援に努め、同時に保護者の理解を深める必要があります。」区で保護者の理解を深めるために具体的に行っている支援・対策はありますか？

【保健予防課 回答】

通常健康診査、家庭訪問、各種相談などから、異常などの早期発見のため、経過観察健康診査を実施しています。未受診者に対しては、保健師が個別に保護者へ連絡し、経過観察健康診査の重要性について理解を深められるようフォロー体制を取っています。

⑥審議・調査1-1別添1につきまして、p42, 43でギャラクシティの休館について「令和9年度から11年度まで大規模回収工事により休館する予定で、その観の文化芸術に関する体験機会の創出方法を検討」とありますが現時点ではどのように考えていますか？

【地域文化課 回答】

ギャラクシティで実施している事業のうち、「出張プラネタリウム」や「ストリートピアノ」、子どもたちの部活動である「Gがくえん」や「こどもみーていんぐ」など、他施設やアウトリーチにより継続できる可能性がある事業を割り出し、事業実施の必要性を精査していくとともに、指定管理者が不在になることから、実施方法等含めて検討していきたいと考えています。

（意見）ギャラクシティでの体験やイベント、プラネタリウムは区内の未就学児から学齢期の児童生徒にとって得難い経験になっていると思います。また他の区内施設（生物園・都市農業公園・ビオトープ）で開催されるイベントに比べて回数や参加可能人数が多いのでより多くの子ども達が体験できるようになっており、親としてはとても助かっております。個人的にはギャラクシティは足立区の宝であると思っております。休館予定の3年間は子ども達にとってとても長い期間であると思います。この期間にも同様のイベントや体験プログラム、サイエンス講座や出張プラネタリウムなどを行い子どもの体験や経験する機会を創出していただくことを強く希望しています。

【地域文化課 回答】

前述のとおり、ギャラクシティの事業のうち、他施設やアウトリーチにより継続できる可能性がある事業を割り出し、事業実施の必要性を精査していくとともに、指定管理者が不在になることから、実施方法等含めて検討していきたいと考えています。

裏面あり

⑦審議・調査1-1別添1につきまして、p44の成果指標のNo.1の子育ては楽しいと感じる割合の令和5年度の数値が74.7%に対して令和11年度の目標数値は77.5%であるとありましたが、この間にいろいろな子育ての施策を行うのにこの数値を目標値として設定された理由根拠は何ですか？

【保健予防課 回答】

国の『こども未来戦略「加速化プラン3.6兆円」』、東京都の『とうきょうママパパ応援事業』などの他、区においても「伴走型相談支援事業」や「産後ケア」などの様々な子育て支援策、各種相談事業を実施することで、経済的な支援と育児不安の解消により、「子育てが楽しい」と回答する人の割合が、毎年0.5ポイント程度ずつ増えることを期待し、目標値を77.5%に設定しました。

《設定目標値》

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
楽しい割合	74.70%	75.00%	75.50%	76.00%	76.50%	77.00%	77.50%

令和 6 年度第 3 回「子ども支援専門部会」 質問に対する回答

中嶋委員

①今回の計画案には書かれていないのですが、政府が 2026 年度に全国導入を予定している「誰でも通園制度」については、どんな制度なのか？足立区としてどのように導入しようとしているのか？教えてください。

【保育・入園課 回答】

【制度概要】

生後6カ月から満3歳未満の児童を対象に、現行の幼児教育・保育給付に加え、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず、時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付制度です。

【区の考え】

（上限について）令和8年度から導入し、令和8・9年度は国の示す「経過措置期間」の考えを区としても取り入れる考えです。具体的には補助基準上の上限が、令和8・9年度は3時間、令和10年度から10時間を想定しています。

（実施方法について）今後調整が必要ですが、現時点では以下のとおり考えています。

種別	実施方法
認可保育所	一般型として、私立園・区立園ともに、既存の一時保育枠の半分を誰でも通園制度の枠とする。
小規模保育	余裕活用型として、既存の一時保育を実施している事業所で実施する。
家庭的保育	
幼稚園	（都）多様な他者との関わりの機会創出事業やプレ保育を行っている幼稚園で実施を検討する。

②小池都知事が選挙公約をした「第1子からの保育無償化」の、今後の足立区の取り組み予定について教えてください。

【保育・入園課 回答】

都知事が都議会第3回定例会において、保育料の第一子の無償化について、区市町村などと連携しながら具体的に検討していくとの考えを示したことから、引き続き都の動向を注視し足並みを揃えて対応していきます。

裏面あり

③別添1 P42 施策1－4

放課後子ども教室の満足度が目標値になっているが、取り組む小学校数が（R5で56校）低い。取り組む小学校数を上げること目標値にしないのはなぜですか？

【青少年課 回答】

放課後子ども教室は、区内全小学校67校にて実施していますが、全学年（1～6年生が利用できる）実施校数はコロナ禍の影響により、令和5年度時点で56校という状況です。

前計画策定時には、1校を除き実施していたことから指標としては設定していませんでした。しかしコロナ禍から全学年実施に取り組む小学校数が減っていることを鑑み、全学年実施に取り組む小学校数は、活動指標として組み込みたいと思います。

④別添1 P46 施策2－2

保育需要に対する待機児童率を令和11年度には0とする目標を掲げているが、どのようにして目標を達成しようとしているのか？

【保育・入園課 回答】

今年度、5人の待機児童が発生したため0.04%の実績となっており、子ども・子育て支援事業計画上の各提供区域において、定員の空きはあるが待機児童が発生した状況となっています。

そのため、既存施設を最大限活用できる方法を模索していきたいと考えています。

なお、大規模集合住宅の建築が予定されている千住橋戸町においては、令和8年度開所に向けて認可保育所1園を整備予定です。

令和 6 年度第 3 回「子ども支援専門部会」 質問に対する回答

小林委員

①p3 報告事項 1 あだちっ子歯科健診の実施結果について

「足立区糖尿病対策アクションプランー歯科口腔保健対策編ー」の一環とあるが、糖尿病とむし歯予防はどのように関連しているのか知りたい。

【子ども政策課 回答】

平成 26 年度から、糖尿病対策アクションプランに「歯科口腔保健対策」を位置付けて取り組んでいます。糖尿病対策アクションプランにおいては、「野菜を食べる・野菜から食べる・よく噛んで食べる」ことで、血糖値の急上昇を抑え、早食いを防ぎ、肥満や糖尿病の予防に繋がるため、一体的に取り組んでいます。

よく噛むためには、むし歯予防や歯周病予防など、歯・口腔の健康が不可欠です。また、子どもの頃からよい生活習慣を身につけることは重要であることから、子どものむし歯予防に重点を置いて推進しています。

②p6 報告事項 2 足立区民設学童保育室の選考状況について

応募のない地区がある中で、6 年度後期の公募は行わないのはなぜか。

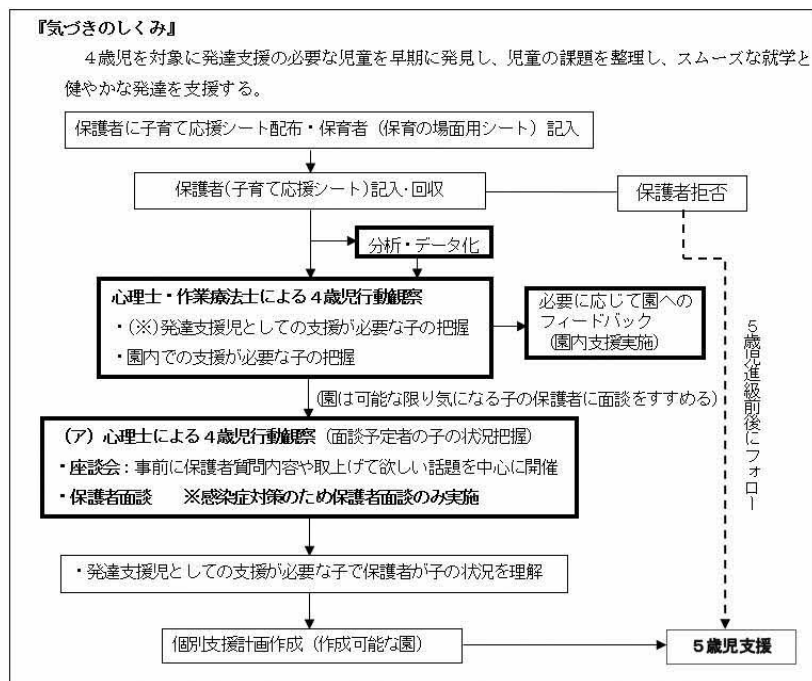
【学童保育課 回答】

令和 6 年度の公募について、事業者へ応募がなかった地域の理由を聞き取りに行ったところ、物件は複数見つかっていましたが、学童保育室として利用することに所有者と調整がつかなかったことが主な原因でした。

このため、応募のなかった地区で特に学童需要の多い地区については、既存の校内学童保育室の拡充を進めています。

(3) 発達支援

【概要】 『気づきのしくみ』の支援や取組みを区独自の手法（図の太枠部分）で実施し、気になる子に対して、支援手法の確立と支援体制の構築を図る。



（※） 発達支援児：医師の問診・心理士の発達検査を基に発達支援委員会で要支援児と認定された児童

実施結果（令和5年度）

	園数 (クラス数)	対象児童	(*)①～④計 気になる子(%)	① 支援児数(%)	② 支援児支援数(%)	③ 園内支援数(%)	④ 場面支援数(%)
R4 ㊸	114 園 (116 クラス)	1,941 人	1,216 人 (62.64%)	128 人 (6.59%)	138 人 (7.1%)	390 人 (20.09%)	560 人 (28.85%)
R5 ㊹	118 園 (121 クラス)	1,994 人	1,283 人 (64.34%)	133 人 (6.67%)	156 人 (7.82%)	436 人 (21.87%)	558 人 (27.98%)
増減率 (㊹-㊸)/㊸×100	3.5% (4.3%)	2.7%	5.5%	3.9%	13.0%	11.8%	-0.4%

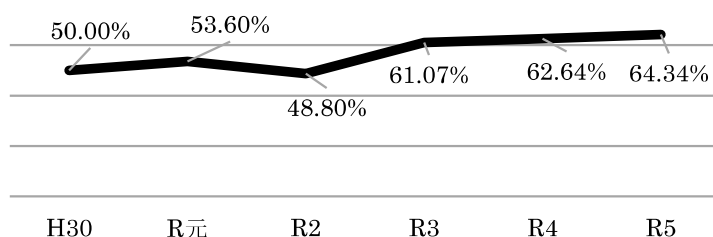
(*) ①支援児 : 発達支援児 ②支援児支援：発達支援児と同様の配慮が必要な児童

③園内支援 : 常時配慮は必要ではないが、発達特性に応じた配慮が必要な児童

④場面支援 : 場面の切り替え等特定の場面での配慮を必要とする児童

(ア)

気づきのしくみ 気になる子(%)の経年変化



	個別面談 参加者数	げんき 相談数
R4 ㊸	496人	96人
R5 ㊹	563人	105人
増減率 (㊹-㊸)/㊸×100	13.5%	9.4%